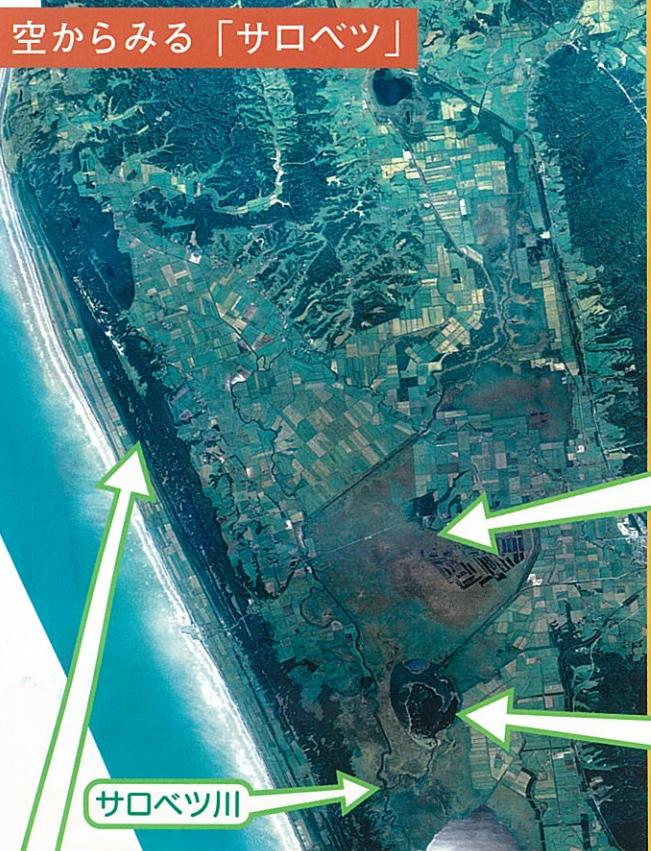


『大きく小さい神秘の自然』

国内最大の平地の高層湿原「サロベツ」と 不思議な生きものたちを探る！



サロベツは、アイヌ語で「サル・ペツ=原野を流れる川」を意味します。2万ヘクタールを越える広大な原野、サロベツ川、そして長い砂丘。中心部にはミズゴケの優占する高層湿原からヨシが優占する低層湿原、ササ原や牧草地といった草地の風景が延々と広がっています。この樹木がほとんど無く、まっ平らで広大な風景こそ、まさにサロベツそのものです。ここは不思議な生き物の宝庫であると同時に、品質の高い牛乳を生産する優れた酪農地帯です。

「平地では国内最大のミズゴケ湿原（高層湿原）」

開拓前の高層湿原（ミズゴケが繁茂し、高い草や木はない湿原）面積は1万5千ヘクタール近くあったと言われていますが、今は2千8百ヘクタールを少し下回るぐらいです。それでも、平地のまとまった高層湿原としては国内最大です。しかし、サロベツ川側の方から徐々にササ類の侵入が進みつつあり面積の減少が続き、ササ類の拡大を防ぐ対策が必要となっています。

湿原上空からペンケ沼を望む！

ペンケ沼はパンケ沼とともにサロベツ原野の中心部にある大きな沼です。春秋にはシベリアやサハリンで繁殖するガンやカモなどの水鳥がパンケ沼よりペンケ沼の方を多く渡りの一大中継地として利用します。幻の魚イトウも生息しています。しかし、河川と接続されたため土砂が流入して次第に埋まっています。



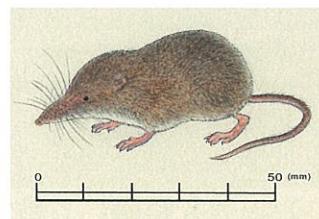
砂丘上にある神秘の沼々「長沼湖沼群」！

サロベツ湿原と海の間には3段になっている大きく大変細長い砂丘があります。その砂丘の一番上にミズナラやトドマツの森があり、すぐ下に細長い長沼湖沼群があります。この不思議な神秘の沼はサロベツでしか見られません。人が容易に近づける道も少なくエゾクロテン、エゾモモンガ、水鳥のミコアイサや猛禽類の繁殖地であり、野生動物の楽園です。しかし、最近水位が低下する危機が沼を襲っています。



世界最小クラスの哺乳類 チビトガリネズミ

別名「トウキョウトガリネズミ」といい、体重が1.8g程度の世界最小の哺乳類のひとつモグラの仲間です。国内では道北・道東に数ヶ所の確認記録がある程度の希少動物。サロベツの高層湿原はとても貴重な生息地です。



木道上でひなたぼっこする
コモチカナヘビ

卵でなく赤ちゃんを産む 「コモチカナヘビ」

名前のとおり、トカゲなのに小さな赤ちゃんを産みます（卵胎生）。ユーラシア大陸に広く分布しますが国内ではサロベツ原野、稚内、猿払原野周辺にのみ分布し、大陸とつながりの深い北海道の太古の歴史を感じさせます。

タンチョウ鶴と 「空飛ぶ牛」

オオヒシクイ

国内最大の鳥類タンチョウは一昨年から1つがいだけ鶴居村からやって来ます。2世はまだです。

オオヒシクイは国内最大の雁（ガン）で、今年の秋には最高約7700羽がペンケ沼で羽を休めました。ヒシなどの水草や牧草の落ち穂などを食べ、「空飛ぶ牛」と呼ばれます。双方とも天然記念物です。

タンチョウとオオヒシクイ



国内最大の淡水魚、幻の魚「イトウ」

国内最大の淡水魚で2mを超えた個体の捕獲記録があります。湿地帯のある川の下流や湖沼に住み、サケと違い産卵後も死なず數年にわたって産卵します。北海道北部は残された数少ない生息地で、サロベツ川はまさに最後の聖地の1つです。



サロベツ再生通信

2号

2003.
12.11

発行元

サロベツ再生促進協議会
事務局 豊富町農政課
商工観光課
TEL 0162-181-11001

環境省自然環境局
西北海道地区自然保護事務所

北海道開発局
稚内開発建設部農業開発課
農業水産部農業調査課
稚内自然保護官事務所



シリーズ特集

"湿原と農業の共生を目指す" サロベツに適した農業基盤整備を考える

【第1報】 ~湿原と牧草畠との隣接部に緩衝帯を設置する~

◆第1報のキーワードは 土中の水分 です◆

湿原と牧草畠の隣接部における状況

豊富町の貴重な財産である「湿原」を保全していくためには、豊富な水分を保持できる環境が重要です。

豊富町の基幹産業である酪農の生産基盤となる「牧草畠」では、牧草の生育や農作業ができる適度な水分環境が必要です。(※排水路や暗渠排水は、人為的に土中の水分を調整するために施工するものです)

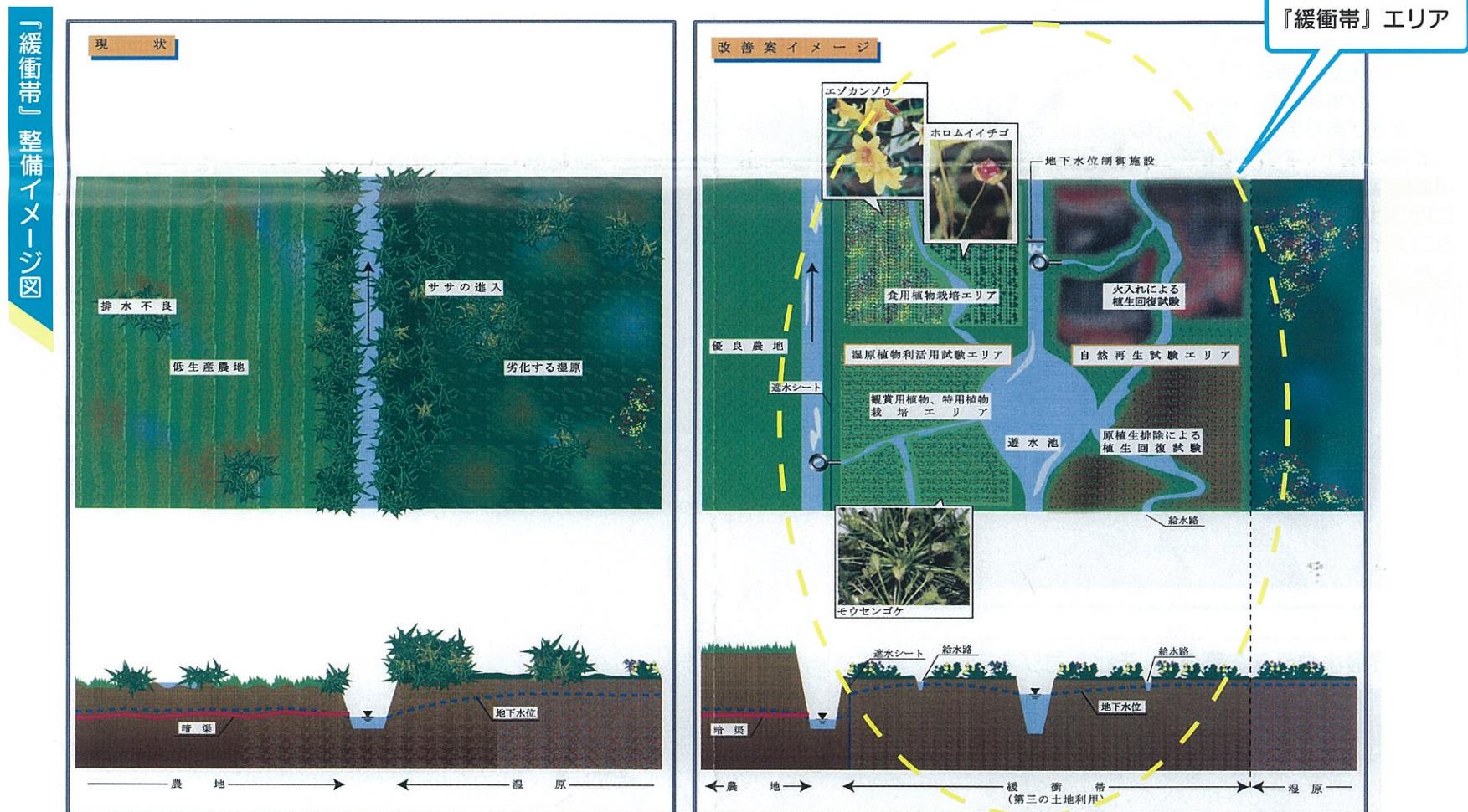
しかし、サロベツでは「湿原」と「牧草畠」の標高差がほとんど無いことから、「湿原」の水分は排水の効いた「牧草畠」側へ引き寄せられます。そのことで「湿原」の乾燥化が進みササ等が侵入するなど、元来の湿原植生が消滅してしまう恐れがあります。また「牧草畠」にとっても「湿原側」から流れ出てくる水は過剰な水分となってしまい、牧草の生産が低下するなど農業経営に支障を来すこととなります。

緩衝帯とは

「湿原」と「牧草畠」のおおのが良好な状態を保全(または再生)していくためには、適度な水分を維持することが必要です。しかし、サロベツの一部では「湿原」と「牧草畠」が隣接していることから、打開策として、それぞれの影響を和らげるクッションの働きをする『緩衝帯』を「湿原」と「牧草畠」の中間地帯に設置することを検討しております。

緩衝帯の整備手法及び効果

『緩衝帯』の整備手法は、まず「湿原」側と「牧草畠」側の水分出入を抑制させる対策として遮水ゾーンを形成します。そして、双方が仕切られた後、「牧草畠」側では過剰な水分を排水可能な排水路等を設け、湿原側では豊富な水分を維持できる給水路等を設けることで、双方が隣接していることによる影響を最小限に押さえる効果が得られることを想定(詳細は、検討中です)しております。



緩衝帯の利活用

『緩衝帯』は、「湿原」と「牧草畠」とを一望できる絶好のポイントです。ここに遊歩道を整備して散策できるようにすると町の観光スポットにもなるかもしれません。また、湿原側の『緩衝帯』では豊富な水分が保持されるので、創刊号でご紹介した「河川跡地」の利活用と同様に「エゾカンゾウ」を観賞用または食用として栽培することも可能となります。

緩衝帯の具現化に向けて

工夫次第で色々な利活用が出来る『緩衝帯』も、必要な用地の提供や日頃の維持管理面で地域住民の方々の協力が欠かせません。将来にわたって豊富町の貴重な「財産」を守るために、そして「基幹産業の発展」のためには皆さんの力が必要となりますので、『緩衝帯』についてご意見等ございましたら、積極的にお聞かせ下さい。

問い合わせ先 豊富町役場農政課
電話 82-1001
稚内開発建設部
農業開発課
電話 33-1000

★北海道開発局から情報発信!!

牧草畠の被害状況等を把握するための調査や整備手法の検討などの情報を『サロベツ再生通信』の誌面から発信させて頂きますので、ご意見、ご質問等をお聞かせ下されば幸いです。

「サロベツ自然再生活動セミナー」が開催されました

平成15年10月14日（火）JA豊富町会議室にて、「サロベツ自然再生活動セミナー」が開催されました。このセミナーは、サロベツの自然再生と地域づくりを考える契機となることを目的として行われ、主に道内での農業と環境活動事例を各々の実践者に紹介していただき、その後発表者によるパネル・ディスカッションが実施されました。このディスカッションには、工藤豊富町長も飛び入りで参加するなど、活発な意見交換の場となりました。

当日の事例発表の内容は次のとおりです。

「パートナーシップによる地域資源管理」

(財)日本グラウンドワーク協会

福井 隆さん

「地域資源に根ざした牧場経営と自然再生」

宗谷岬肉牛牧場 牧場長

氏本 長一さん

「牧場経営とファームインー農業と観光の両立」

つっちゃんと優子の牧場のへや

湯浅 優子さん

「地域資源の有効活用による資源の活性化」

NPO法人 ねおす

宮本 英樹さん



サロベツ自然再生活動セミナーは、今後も様々な講師をお招きして引き続き開催します。是非ご参加ください。詳しくはこの紙面などでお知らせします。

「サロベツ自然再生ワークショップ」が開催されました

平成15年11月11日（火）13:00より、JA豊富町2階会議室において、サロベツと豊富の将来について話し合う第1回目のワークショップを行いました。豊富町内の酪農家や観光業など、様々な職業の町民のみなさん約20人が、自分たちの地域について楽しく語りあいました。このワークショップは春までにあと4回実施される予定です。話し合う気持ちさえあればむずかしくありません。写真や地図などを使いながら誰でも気軽に参加できる会です。ご興味のある方は是非ご参加ください。くわしくは役場商工観光課まで。開催日・場所はこの紙面や回覧などでもお伝えします。

はじめ

- ・あいさつ
 - ・自然再生事業の説明
 - ・今までの経過説明
- 平成14年度の座談会等の報告とサロベツに関わる他の取り組みを紹介します。
- ・ワークショップの説明
 - ・ワークショップによる話し合いの進めかたを説明しました。



現状を知ろう

3つの班に分かれて、地域の中で下記のものやことについて話し合い、地図に描きこんでいきました。

①私の宝もの・こと

- | | |
|------------|----------|
| ・酪農・放牧風景 | ・サロベツ牛乳 |
| ・兜沼公園、自然公園 | ・サロベツの風景 |
| ・ふるさとの風景 | ・円山のエゾ松 |
- など

②子供たちに残したいもの・こと

- | | |
|------------|---------|
| ・サロベツ原野・湿原 | ・砂丘林・湖沼 |
| ・利尻富士の夕日 | ・野鳥 |
| ・歴史・文化・伝統 | ・豊富温泉 |
- など

③変えていかなければならないもの・こと

- | | |
|---------|-------------|
| ・砂丘林のゴミ | ・浜流木 |
| ・植生の変化 | ・農家周辺のゴミの放置 |
| ・交通が不便 | ・古いものの考え方 |
- など

地域の標語を考えよう

サロベツ地域を表す下記のような標語を考え、模造紙に貼り出しました。

- ・水平線の見えるまち
 - ・もっと知ろうきれいな花と広い大地
 - ・サロベツに夢を託して縁（えにし）かな
 - ・サロベツや原野の向こうにみ~つけた
 - ・ただただ広いサロベツ湿原
 - ・ミルクと花の街サロベツ
- など



問い合わせ先 豊富町役場商工観光課
電話 82-1001

サロベツお宝鑑定団(農業と開拓の歴史編)の取組みとスケジュール

【趣 旨】

豊富町のシンボルといえば「サロベツ」があげられます。その広大な湿原や牧草地、そして、そこで根づいた人々の暮らしの中には、豊富町の魅力が多く詰まっているものと思われます。特に農業・開拓の歴史はサロベツ地域において自然環境との関わりの中で切っても切り離せないものです。

本企画は、特に「サロベツ開拓の歴史」に関連する魅力を発掘し、その魅力を豊富町内外にアピールしていきたいと考えています。

【概 要】

本企画では「サロベツ開拓の歴史」を語る上で大切な“残したいもの”、“伝えたい話”などの魅力を「お宝」として、以下の方法で豊富町内外へ紹介していきます。

- ①サロベツお宝鑑定団（参加20名程）の方の協力により集まった「お宝」の報告会を開催する。
- ②リーフレットを作成し、町内外の人たちがいつでも「サロベツ開拓の歴史」に触れることができるよう、現在、環境省がサロベツ湿原に計画しているビジターセンター（モニタリングセンター）等で活用を計画する。
- ③サロベツの開拓では山形県庄内地域からの入植という経緯があり、今回の「お宝」を来年2月に山形県庄内地域で開催される“農業及び故郷に関するシンポジウム”で紹介する。
- ④将来的にはこのお宝を活用し、自然体験活動や地域活性化につなげていきたいと考えています。

【サロベツお宝鑑定団メンバー】

- 豊富町郷土研究会
- 豊富高校郷土研究部
- 一般参加者
- NPO法人自然体験活動推進協議会
- NPO法人ねおす
- 豊富町及び町外サポート者

《スケジュール》

- | | |
|---------|-------------|
| ①11月11日 | サロベツお宝鑑定団結成 |
| ②11月26日 | 第2回鑑定団会議 |
| ③12月中旬 | 現地調査・取材 |
| ④1月下旬 | 鑑定団会議 |
| ⑤2月上旬 | 町内報告会 |
| ⑥2月中旬 | 山形県シンポジウム報告 |
| ⑦3月下旬 | リーフレット完成 |

第2回お宝鑑定団が開催されました

第2回お宝鑑定団（平成15年11月26日豊富町役場2階第2会議室）は、メンバーの都合等を考慮して1部（13：30～16：00）と2部（16：00～17：00）に分けて開催しました。

1部では豊富町郷土研究会が主体となり、豊富町の『お宝』をリストアップを行い、今後の活動スケジュール等の確認を行いました。2部では、豊富高校郷土研究部としての協力を快諾していただいた上で、今後の活動内容等について打ち合わせを行いました。（“若い力”が発揮されることを期待しております!!）

◇1部の模様



◇2部の模様



今後はリストアップされた『お宝』について現地調査等を行い、2月に開催予定の「報告会」、3月下旬までに作成する「リーフレット」の完成に向けて邁進して行きますので、ご支援、ご協力の方、宜しくお願いします。

問い合わせ先 豊富町役場農政課
電話 82-1001
FAX 82-2806